

エビデンスと共に考える「いのち」と「暮らし」を豊かにする講座 season4

コロナの物語×心の科学

物語で読み解くパンデミックの社会心理学

三浦 麻子 氏 大阪大学大学院人間科学研究科・感染症総合教育研究拠点 教授

寒竹 泉美 氏 小説家・サイエンスライター

2026年5月29日(金) 19:30～20:30

会場開催&YouTube Live無料配信

シリーズ概要

本シリーズは2021年度～2022年度の2年間、私たち大阪大学感染症総合教育研究拠点（CiDER）は、『感染症から「いのち」と「暮らし」を守る講座』を通じて、パンデミックという緊急事態に対応する方法をお届けすることからスタートしました。その後、パンデミック後の社会や将来のパンデミックをみすえて講座をリニューアルし、科学的根拠（エビデンス）と上手に付き合いながら、私たちの「いのち」と「暮らし」を豊かにする術（すべ）を皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。大阪大学のさまざまな分野の研究者が、中学生から大人までを対象に、わかりやすく解説する全6回のプログラムです。

講座概要

新刊『コロナの物語×心の科学』（ちとせプレス）の発売を記念して、社会心理学者と小説家という異なる立場の二人の著者が、コロナ禍をめぐる経験と記憶を語り合います。人びとの感じ方や行動は、なぜあれほど大きく分かれ、また時間とともに変わっていったのか。本イベントでは、社会心理学の知見と物語のまなざしを往復しながら、パンデミックという未曾有の出来事のなかで私たちに何が起きていたのかをあらためて見つめ直します。コロナ禍を単なる過去として閉じるのではなく、いまなお続く社会の変化や他者理解の課題へと、思考をつなぎ直す時間となるはずですよ。

講師



三浦 麻子

大阪大学大学院人間科学研究科 教授
感染症総合教育研究拠点
科学情報・公共政策部門
副部門長・人間科学ユニット ユニット長



寒竹 泉美

小説家・サイエンスライター
2008年、京都大学大学院医学研究科博士課程修了。博士（医学）。
化学・生物・人間への関心から、大学院では脳科学を専攻。2009年、講談社 Birthを受賞し『月野さんのギター』（講談社）で小説家デビュー。2017年より理系ライター集団チーム・パスカルに所属。小説家として活動しながら、サイエンスライターとして研究者の著書の執筆協力、研究機関の広報誌の取材・執筆なども手がけている。

社会心理学者。コミュニケーションが新しい「何か」を生み出すプロセスと緊急事態に露見する人間の心理と行動の本質に強い関心をもつ。『「答えを急がない」ほうがうまくいく』（日経BP）制作時に寒竹さんと知り合い、本書の共作を着想。本書では、未曾有と呼ばれた出来事の中に、むしろ私たちの社会のいつもの姿を見ようとしている。心理学研究の面白さと難しさの布教にも熱心で、放送大学『心理学研究法』主任講師を務めている。

5月29日開催講座の詳細・お申し込みはこちら ▶

<https://kc-i.jp/activity/chogakko/cider2026/detail20260529.php>

主催 大阪大学感染症総合教育研究拠点（CiDER）、一般社団法人ナレッジキャピタル

問い合わせ 大阪大学感染症総合教育研究拠点

TEL : 06-6105-5827 Email : pub.relations@cider.osaka-u.ac.jp Web: <https://www.cider.osaka-u.ac.jp/>